

## 退任教員 研究業績報告



鳩の舞う湖を越えて若人の旅立つ春を花と寿ぐ  
—— ささやかな研究業績の一覧を退任記念講演会に添えて ——

List of CHIHAYA Toshio's Research Achievements  
with Some Comments

千速 敏男  
CHIHAYA Toshio

鳩の舞う湖を越えて若人の旅立つ春を花と寿ぐ  
 —— ささやかな研究業績の一覧を退任記念講演会に添えて ——

List of CHIHAYA Toshio's Research Achievements with Comments

千速 敏男  
 CHIHAYA Toshio

教授（西洋美術史）

2024年3月27日に開催する成安造形大学退任記念講演会に添えて、これまでの研究活動をまとめることにしたい。

研究活動は、美学美術史、アート・ドキュメンテーション、大学教育の三つの分野にわかれる。

論文・発表要旨など：美学美術史

- ・「十七世紀オランダのヴァニタスの静物画：諸モチーフの意味について」（修士論文）成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻提出，1986年
- ・「十七世紀オランダの静物画の成立について：ヴァニタスの理念を中心に」『美學』（美学会）151号，1987年
- ・「十七世紀オランダの食卓の静物画について（全国大会口頭発表要旨）」『美學』（美学会）155号，1988年
- ・「『フランス革命と図像』自由討議：概要報告」『日仏美術学会会報』第9号，1989年
- ・「十七世紀オランダの美術理論についての一考察：schilderachtichについて（全国大会口頭発表要旨）」『美學』（美学会）第167号，1991年
- ・「十七世紀オランダの美術理論についての一考察：schilderachtichについて」『美學』（美学会）168号，1992年
- ・「レンブラントの褒め方，けなし方」『ユリイカ』第25巻4号，1993年
- ・「西洋美術における静物画の成立とその意義をめぐって」『芸術倶楽部』第3号，1994年
- ・「Über die Bedeutung des Wortes,'schilderachtich', in der niederländischen Kunstliteratur des 17. Jahrhunderts」『AESTHETICS』（美学会）第6号，1994年
- ・「討論：芸術の様式について」『美学美術史論集』（成城大学大学院文学研究科）第10輯，1995年
- ・「造形による知的営みとしての『造形知』の可能性についての覚え書き：文部省科学研究費補助金『萌芽的研究』をはじめに於いて」『鳩：成安造形大学紀要』第6号，2000年
- ・「メディア空間上の共振としての『アウラ』：今日的絵画鑑賞法に寄せて」『今日的絵画鑑賞法』京都芸術センター，2001年
- ・「造形による知的営みとしての『造形知』の多角的研究：その可能性と意義」『造形による知的営みとしての「造形知」の多角的研究：美学的・芸術学的・教育学的・心理学的・社会学的・歴史学的・情報学的・工学的観点から：1999年度～2001年度文部科学省科学研究費補助金「萌芽的研究」報告書』成安造形大学，2002年
- ・「造形による知的営みとしての『造形知』の多角的研究：その研究成果」『造形による知的営みとしての「造形知」の多角的研究：美学的・芸術学的・教育学的・心理学的・社会学的・歴史学的・情報学的・工学的観点から：1999年度～2001年度文部科学省科学研究費補助金「萌芽的研究」報告書』成安造形大学，2002年
- ・「知覚の歴史性とそのパラダイム：パノフスキーの方法論から出発して」『造形による知的営みとしての「造形知」の多角的研究：美学的・芸術学的・教育学的・心理学的・社会学的・歴史学的・情報学的・工学的観点から：1999年度～2001年度文部科学省科学研究費補助金「萌芽的研究」報告書』成安造形大学，2002年
- ・「デジタル・メディアによる空間上の共振としての『アウラ』」『造形による知的営みとしての「造形知」の多角的研究：美学的・芸術学的・教育学的・心理学的・社会学的・歴史学的・情報学的・工学的観点から：

- 1999年度～2001年度文部科学省科学研究費補助金「萌芽的研究」報告書』成安造形大学, 2002年
- ・「様式分析から図像学へ：パノフスキーの場合」『鳩：成安造形大学紀要』第7号, 2002年
  - ・「日本美術史における『近代』」『美學美術史論集』（成城大学大学院文学研究科）第15輯, 2003年
  - ・「レンブラントとピクチャレスク」『成安造形大学学術活動報告平成14年度』2003年
  - ・「ウィレム・フーレーの“teyckenachtigh”について」『伝統と象徴：美術史のマトリックス』沖積舎, 2003年
  - ・「水が光を生む：西洋近世の素描における淡彩の意義」『素材としての水・主題としての水展目録』成安造形大学アート・サイト, 2003年
  - ・「大いなる物語の時代、ルネサンス：『イタリアルネサンス事典』の刊行に寄せて」『イタリアルネサンス事典』付録, 東信堂, 2003年
  - ・「Schilderachtig, Painter-like, Picturesque：一七世紀オランダにおける「ピクチャレスク」の独自性を示すささやかな用例について」『日蘭学会通信』第113号, 2005年
  - ・「Jacob Burckhardt und Gustav Friedrich Waagen: Wie finden beide Kunsthistoriker Pieter Paul Rubens」『成安造形大学学術活動報告平成16年度』2005年
  - ・「英語圏での視覚文化研究（Visual Culture Studies）における教科書ならびにそれに準ずる図書（introductions, readers and anthologies）に関する文献学的な基礎研究」『成安造形大学紀要』第1号, 2010年
  - ・「レンブラントの《夜警》はピクチャレスクか：サミュエル・ファン・ホーフストラートの“schilderachtich van gedachten”をめぐって」『美學美術史論集』（成城大学大学院文学研究科）第19輯, 2011年
  - ・「西洋美術における自然の表現」『自然学』ナカニシヤ出版, 2014年
  - ・「18世紀前半の英国における picturesque と painter-like：16世紀イタリアにおける pittoresco ならびに17世紀オランダにおける schilderachtig との関係において」『成安造形大学紀要』第7号, 2016年
  - ・「アーノルト・ハウブラーケンの『大劇場』における schilderachtig」『成安造形大学紀要』第8号, 2017年
  - ・「大ブリュッゲルの義母：ブリュッゲル一族の基礎を築いた女性画家、マーイケン・フェルヒュルスト」『成安造形大学紀要』第9号, 2018年
  - ・「アーノルト・ハウブラーケンの『ネーデルラントの画家たちの大劇場』における「素描的（tekenachtig）」『イメージ制作の場と環境：西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論』中央公論美術出版, 2018年
  - ・「アーノルト・ハウブラーケンの『大劇場』における schilderachtig（続報）」『成安造形大学紀要』第10号, 2019年
  - ・「ファン・ゴッホの書簡にみるフェルメール」『成安造形大学紀要』第11号, 2020年
  - ・「レンブラント作《ヤン・シックスの肖像》とファン・ゴッホ」『成安造形大学紀要』第12号, 2021年
  - ・「現代芸術とSDGs（持続可能な開発目標）をめぐる覚書」『成安造形大学紀要』第14号, 2023年

#### 口頭発表・シンポジウムなど：美学美術史

- ・「十七世紀オランダの静物画の成立について」美学会東部会1987年度第2回例会, 1987年7月11日
- ・「十七世紀オランダの食卓の静物画について」美学会第39回全国大会, 1988年10月24日
- ・「十七世紀オランダの美術理論についての一考察：schilderachtich について」美学会第42回全国大会, 1991年10月19日
- ・「上原和教授退任記念シンポジウム：芸術の様式について」成城大学, 1995年3月10日
- ・「田中日佐夫教授退任記念シンポジウム：日本美術の近代を再考する」成城大学, 2002年3月2日

どのようにして、17世紀オランダにおいて静物画が独立した絵画ジャンルとなり、隆盛になったのか。これが、研究の出発点だった。そして、18世紀後半の英国で流行した美学理念であるピクチャレスク（picturesque）にさきだって、17世紀のオランダで schilderachtig（絵画的、絵になる、画家にふわわしい）という言葉が用いられて

いたという事実を、クリストファー・ハッセイのある論文の註のなかで見つけたとき、この schilderachtig という言葉が静物画成立の美学的な背景として重要な意義をもつのではないかと予感した。以後、17世紀オランダにおける schilderachtig という言葉の語義の探究が研究の主軸となった。カレル・ファン・マンデルの『画家の書』（1604年刊行）からサミュエル・ファン・ホーホストラートの『絵画の高等学校入門』（1678年刊行）やヘラルト・デ・ライッセの『大きな画家の書』（1707年刊行）を経てアーノルト・ハウブラーケンの『ネーデルラントの画家たちの大劇場』（1718-21年刊行）にいたる17世紀オランダの美術文献にあたり、schilderachtig という言葉の語義の変遷を明らかにした。さらに、17世紀オランダの schilderachtig にさきだって16世紀後半のイタリアでジョルジョ・ヴァザーリが用いた pittoresco や、18世紀初頭の英国における schilderachtig というオランダ語の受容——これは18世紀後半におけるピクチャレスクの美学にさきだつものだ——にも目を配った。ところで、ハインリヒ・ヴェルフリンは、『美術史の基礎概念』（1915年刊行）において「線的」と「絵画的」という対概念を挙げたが、schilderachtig（絵画的）というオランダ語にも tekenachtig（素描的）という対概念が存在する。これもまた、調査の対象となった。なお、成安造形大学に赴任した直後におこなった共同研究「造形による知的営みとしての『造形知』の多角的研究」は、成安造形大学における初めての文部科学省科学研究費補助金による研究である。

#### 論文・発表旨など：アート・ドキュメンテーション

- ・「西洋美術史と参考図書」『アート・ドキュメンテーション通信』第11号, 1991年
- ・「ミュンヘンにおける美術史・建築史研究について」『日仏美術学会会報』第11号, 1992年
- ・「展覧会カタログを考える：自由討議の概要報告」『日仏美術学会会報』第11号, 1991年
- ・「参考図書としてのデータベース：一西洋美術史研究者の経験から」『情報知識学会ニューズレター』第23号, 1993年
- ・「美術史学の補助学としての史料（情報）論：一西洋美術史研究者の経験から」『アート・ドキュメンテーション通信』第20号, 1994年
- ・「美術作品の作品記述とドキュメンテーション（第1回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム口頭発表予稿）」『アート・ドキュメンテーション通信』第23号, 1994年
- ・「美術史学とコンピュータ：美術作品の情報処理をめぐって」『上原和博士古希記念美術史論集』上原和博士古希記念美術史論集刊行会, 1995年
- ・「美術作品の作品記述とドキュメンテーション」『第1回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「美術情報と図書館」報告書』アート・ドキュメンテーション研究会, 1995年
- ・「第一回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム『美術情報と図書館』：美術情報をめぐってさまざまな分野から活発な発言」『図書館雑誌』第89巻1号, 1995年
- ・「諸学問の領域を越えた『超』整理法なんてあるのかな？：あるいは、なぜ自分の机の周りは乱雑なんだろう？」『情報知識学会ニューズレター』第34号, 1995年
- ・「【歴電】 クロニクル：学術活動におけるパソコン通信の一事例」『情報知識学会ニューズレター』第35号, 1995年
- ・「近代日本における西洋美術の受入れをめぐって：ドキュメンテーションとの関連から」『アート・ドキュメンテーション通信』第28号, 1996年
- ・「トーマス・レルシュ博士講演会『ミュンヘン中央美術史研究所のドキュメンテーション活動とドイツ美術図書館』：報告と感想」『アート・ドキュメンテーション通信』第30号, 1996年（『ARS UNA 日独芸術学研究会報』第3号に転載）
- ・「第23回鹿島美術財団美術講演会『美術史学とデジタル画像』報告」『アート・ドキュメンテーション通信』第32号, 1997年

- ・「ars-WG 報告」『アート・ドキュメンテーション通信』第 36 号, 1998 年
- ・「電子博物館シンポジウムの概要報告」『アート・ドキュメンテーション通信』第 36 号, 1998 年
- ・「美術史学教育における ars (art reference service) の利用と実践」『Ars の現場とツールの諸相: 1996 年度アート・ドキュメンテーション研究会 ars-WG 活動報告』アート・ドキュメンテーション研究会, 1998 年
- ・「第 10 回 (1999 年度) 年次大会概要報告」『アート・ドキュメンテーション通信』第 42 号, 1999 年
- ・「美術書誌入門書の一構想: 西洋美術史を中心に」『日仏美術学会会報』第 18 号, 1999 年
- ・「服飾史の史料としての肖像画について: 一西洋美術史研究者の経験から」『ファッションドキュメンテーション』(ファッションドキュメンテーション研究会) 第 8 号, 1999 年
- ・「薔薇の花を描いた美術作品が見たい: モティーフでの検索が可能な美術作品データベースのために」『人文科学と情報処理』第 21 号, 1999 年
- ・「福田博同氏『インターネット美術情報: 収集、加工、発信』」『ars 叢書』第 2 巻 (アート・ドキュメンテーション研究会), 2000 年
- ・「サイトの authorization」『アート・ドキュメンテーション研究』第 8 号, 2000 年
- ・「ネットワーク時代におけるアーカイブズのデジタル化のための方法論をめぐって: 人文科学とコンピュータシンポジウム『じんもんこん 2000』に参加して」『アート・ドキュメンテーション通信』第 48 号, 2001 年
- ・「太田瑞穂氏の発表『フランス 19 世紀美術事典の成立と展開』について: 美術文献学へのまなざし」『アート・ドキュメンテーション通信』第 54 号, 2002 年
- ・「美術系大学における図書館をめぐる内外の状況: 一西洋美術史研究者の立場から」『私立大学図書館協会会報』第 124 号, 2005 年
- ・「物語る美術作品のドキュメンテーション: 一西洋美術史研究者の立場から」『アート・ドキュメンテーション学会 2008 年度 (第 19 回) 年次大会「物語るアート・ドキュメンテーション」予稿集』2008 年
- ・「現代美術の物語性とそのドキュメンテーション」『成安造形大学紀要』第 1 号, 2010 年
- ・「schilderachtig か fchilderachtig か: 高度情報化社会における情報の確度をめぐって」『成安造形大学紀要』第 2 号, 2011 年
- ・「文献紹介: ヨーハン・コンラート・エーバーライン, ゲッツ・ポハット監修, パウル・フォン・ナラディ＝ライナー編『美術史著述の主要作品』(2010 年刊行)」『アート・ドキュメンテーション研究』第 21 号, 2014 年

※ ほかに彙報として。

『アート・ドキュメンテーション通信』第 28 号, 第 29 号, 第 31 号, 第 32 号, 第 33 号, 第 39 号, 第 41 号, 第 42 号, 第 44 号, 第 48 号, 第 49 号

#### 口頭発表・シンポジウムなど: アート・ドキュメンテーション

- ・「展覧会カタログを考える」日仏美術学会第 55 回例会／アート・ドキュメンテーション研究会第 11 回研究会, 1992 年 2 月 7 日
- ・「美術史研究: 文献 (文字情報) のドキュメンテーション」情報知識学会研究集会「歴史研究と電算機利用」, 1993 年 9 月 18 日
- ・「美術作品の作品記述とドキュメンテーション」[第 1 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム: 美術情報と図書館], 1994 年 11 月 18 日
- ・「美術情報をめぐって: 会員相互の意見交換の場を作る試み」アート・ドキュメンテーション研究会第 21 回研究会, 1995 年 12 月 2 日
- ・「西洋美術史と参考図書」第 40 回アート・ドキュメンテーション研究会関西地区部会月例研究会, 1996 年 10 月 10 日

- ・「美術史学教育における ars (art reference service) の利用と実践」アート・ドキュメンテーション研究会 ars-WG 連続講座, 1997 年 1 月 25 日
- ・「美術館と画像データベースの諸問題」安造形大学・京都リサーチパーク・インターメディアウム研究所共催 公開講座「文化データベース」, 1997 年 10 月 21 日
- ・「電子博物館シンポジウム」アート・ドキュメンテーション研究会・情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会・記録管理学会主催, 1997 年 12 月 18 日 (座長)
- ・「美術情報の探し方：美術史を学ぶ学生のための教科書案」第 53 回アート・ドキュメンテーション研究会関西地区部会月例研究会, 1998 年 9 月 12 日
- ・「美術書誌入門書の一構想：西洋美術史を中心に」第 82 回日仏美術学会例会, 1999 年 3 月 27 日
- ・「日本の電子ネットワークにおける美術系サイトの意義と今後の課題」アート・ドキュメンテーション研究会 1999 年度年次大会, 1999 年 6 月 5 日 (コーディネータ)
- ・「美術情報の明日を考える」アート・ドキュメンテーション研究会主催「第 2 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム」, 1999 年 11 月 12 日 (総合司会)
- ・「パレルゴン：署名・タイトル・額縁・作品の場」日仏美術学会主催シンポジウム, 1999 年 12 月 5 日 (コメンテータ)
- ・「今日の情報化社会における美術史学：ヴェルフリンとパノフスキーを中心に」第 63 回アート・ドキュメンテーション研究会関西地区部会月例研究会, 1999 年 12 月 11 日
- ・「大塚国際美術館：原寸大複製による文化財記録保存」第 68 回アート・ドキュメンテーション研究会関西地区部会月例研究会, 2000 年 8 月 5 日 (共同発表)
- ・「VFZ フォーマットおよび関連システムについて」第 72 回アート・ドキュメンテーション研究会関西地区部会月例研究会, 2001 年 2 月 10 日 (コーディネータ)
- ・「21 世紀の関西地区部会のために」第 73 回アート・ドキュメンテーション研究会関西地区部会月例研究会, 2001 年 3 月 3 日
- ・「生涯教育とアート・ドキュメンテーション活動」アート・ドキュメンテーション研究会 2002 年度年次大会, 2002 年 6 月 8 日 (司会・コメンテータ)
- ・「物語る美術作品のドキュメンテーション：一西洋美術史研究者の立場から」アート・ドキュメンテーション学会 2008 年度 (第 19 回) 年次大会, 2008 年 6 月 7 日

1989 年に創設されたアート・ドキュメンテーション研究会は、美術文献の探査を課題とする者にとってたいへん心強い集まりだった。1986 年の国際図書館連盟東京大会開催を契機に創設されたこの研究会は、1999 年には日本学術会議の登録学術研究団体に加入することが認められ、2005 年に「アート・ドキュメンテーション学会」に改称している。この学会において、一貫して西洋美術史研究者の立場で発言を続けてきた。そのなかで、1999 年度の年次大会「日本の電子ネットワークにおける美術系サイトの意義と今後の課題」を成安造形大学で開催できたことは、ミュンヘンの中央美術史研究所でお世話になったトーマス・レルシュ博士をお招きして開催した講演会 (1996 年) とともに、よい思い出である。

#### 論文・発表要旨など：大学教育

- ・「ジャポニズム研究」『自由研究講座・夏期セミナー 集録』(成城学園高等学校) 第 14 号, 1989 年
- ・「西洋美術への誘い」『自由研究講座・夏期セミナー 集録』(成城学園高等学校) 第 15 号, 1990 年
- ・「分科会のまとめ」『第 8 回 FD フォーラム報告集』大学コンソーシアム京都, 2003 年
- ・「造形による知的営みとしての『造形知』と学び：高度情報化社会に対応した新しい科目『ヴィジュアル・リテラシー』の提案」『第 8 回 FD フォーラム報告集』大学コンソーシアム京都, 2003 年



- ・「博物館実習としての小学生を対象としたおもちゃづくりワークショップの運営：大津市歴史博物館との連携による新たな試み」『博物館学芸員課程実習報告』（成安造形大学）第8号，2006年
- ・「つくるでござる★お江戸のおもちゃ『おもちゃのつくりかた』」[seian.tv] 2008年4月24日配信
- ・「つくるでござる☆お江戸のおもちゃ」[seian.tv] 2009年5月22日配信
- ・「大津市歴史博物館との共同企画によるワークショップ：博物館からインターネットへの展開」『博物館学芸員課程実習報告』（成安造形大学）第11号，2009年
- ・「おもちゃづくり・紙芝居・歴史：大津市歴史博物館との共同企画によるワークショップ」『博物館学芸員課程実習報告』（成安造形大学）第13号，2011年
- ・「大津市歴史博物館での小学生を対象としたワークショップ活動の報告」『成安造形大学紀要』第3号，2012年
- ・「芸術系大学のキャリア支援科目を考える（1）：成安造形大学「キャリアデザイン特講3」におけるミニッツ・ペーパーに寄せられた学生からのコメントを中心に」『成安造形大学紀要』第4号，2013年
- ・「芸術系大学のキャリア支援科目を考える（2）：成安造形大学キャリアサポートセンター進路調査票の改良を中心に」『成安造形大学紀要』第5号，2014年
- ・「芸術系大学のキャリア支援科目を考える（3）：成安造形大学における新たな導入教育科目「スタディスキル実習」の開発：キャリア支援教育との連携を視野に」『成安造形大学紀要』第6号，2015年
- ・「芸術系大学におけるコロナ禍の遠隔授業：初年次教育および西洋美術史を中心に」『成安造形大学紀要』第13号，2022年

※ ほかに彙報として。

『NewsRelease』（成安造形大学）第18号，第20号，第24号，第25号，第26号，第29号，第36号，第37号，第43号，第48号，第50号，第52号，第55号，第56号

『成安造形大学学術活動報告』平成14年度，平成15年度，平成16年度，平成17年度，平成18年度，平成19年度

『seian projects 一地域連携一』（成安造形大学）第1号

## 口頭発表・シンポジウムなど：大学教育

- ・「第7分科会『感性と学び』」大学コンソーシアム京都第8回ファカルティ・デヴェロップメント・フォーラム，2003年3月9日（コーディネータ）
- ・「造形による知的営みとしての『造形知』と学び：高度情報化社会に対応した新しい科目『ヴィジュアル・リテラシー』の提案」大学コンソーシアム京都第8回ファカルティ・デヴェロップメント・フォーラム，2003年3月9日
- ・「美術系大学における図書館の共生と特化について：一西洋美術史研究者の立場から」2004年度私立大学図書館協会西地区部会研究会，2004年10月9日
- ・「美術鑑賞教育のために」京都府立高校美術教育研究会，2007年12月7日
- ・「芸術による社会への貢献」平成21年度大津・高島ブロック社会教育委員連絡協議会地区研修，2009年11月18日

1990年代以降、日本では大学教育のありかたが問われ続けている。成安造形大学に赴任後、一貫して教学分野を中心とした校務に携わり、成安造形大学における初年次教育やキャリア・デザイン教育の科目を開発し、担当してきた。その際、大学コンソーシアム京都が毎年開催するファカルティ・デヴェロップメント・フォーラムからは多くの示唆を得ることができた。初年次教育では、2004年度の「基本演習A」をはじめとして、

2005年度からの「基本科目特講 F」(2007年度からは「教養演習 B1」、2010年度からは「教養演習 B2」を追加)を経て、2014年度からの「スタディスキル実習 1」～「スタディスキル実習 1」を開発し、担当した。キャリア・デザイン教育では、2006年度の「基本科目特講 H」(翌2007年度からは「キャリアデザイン演習 B」と「基本科目特講 I」(翌2007年度からは「キャリアデザイン演習 C」)に続けて2008年度に「キャリアデザイン演習 D」を開発したのち、2015年度からは「就業力育成演習 A」と「就業力育成演習 B」、翌2016年からは「就業力育成演習 C」と「就業力育成演習 D」を開発し、担当した。

#### 書籍：参考図書

- ・『西洋絵画作品名辞典』三省堂、1994年(共著)
- ・『丸善エンサイクロペディア』丸善、1995年(共著)
- ・『ブリタニカ国際大百科事典』TBSブリタニカ、1995年(共著)
- ・『日本の参考図書』日本図書館協会、2002年(共著)
- ・『マクミラン社グローヴ世界美術大事典スタディ・ガイド』ネイチャー・ジャパン、1996年(共著)
- ・J・R・ヘイル編『イタリアルネサンス事典』東信堂、2003年(共訳)

ミュンヘン大学留学の前後、5年以上にわたって、ベテラン編集者、横山民子さんのもとで『西洋絵画作品名辞典』の執筆と編集に携わった。横山さんのおかげで、事典編纂について深く学ぶことができ、その後の研究活動の基礎をかためることができた。学術活動の基盤となる事典の編纂はたいへん魅力的な仕事だったが、インターネットの普及によりその機会は失われてしまった。Wikipediaに代表される無責任な情報の濁流が、新たな事典を編纂する機会ばかりでなく、すでにある事典を改訂する機会をも押し流したのである。

#### 書籍：教科書

- ・『美術史と美術理論：西洋十七世紀絵画の見方』放送大学教育振興会、1992年(共著)
- ・『美術史と美術理論：西洋十七世紀絵画の見方』改訂版、放送大学教育振興会、1996年(共著)
- ・文部省委託事業CD-ROM『美術の散歩道：日本のくらしの歴史をたどる』マルチメディア教材「日本の美術・くらし・社会」研究開発グループ、1996年(共著)
- ・『美術情報の探し方：西洋美術史を中心に』成安造形大学、1999年
- ・『就職のための国語知識問題集』成安造形大学、2015年

放送大学客員教授を務めることになった日本大学教授、木村三郎先生が声をかけてくださり、放送大学の教科書づくりにかかわることができたのは、たいへんよい経験だった。成安造形大学における西洋美術史の授業は、この放送大学の教科書が出発点になっている。また、アート・ドキュメンテーションの分野での活動を通じて、文部省委託事業のマルチメディア教材『美術の散歩道』の制作に携わることになったのも、よい経験だった。さらに、アート・ドキュメンテーションの分野での経験をいかし、『美術情報の探し方』という教科書をつくることもできた。欧米にはバーバラ・ヴィルクの『私はどのように美術文献を探るか』(Barbara Wilk, *Wie finde ich kunst-wissenschaftliche Literatur*, 1983) やロイス・スワン・ジョーンズの『美術情報：調査方法とリソース』(Lois Swan Jones, *Art Information: Research Methods and Resources*, 3<sup>rd</sup> Ed, 1990) のような定評のある教科書がある。これらの教科書を目標として作成したささやかな試みである。

#### 書籍：一般書(翻訳を含む)

- ・ヴェルナー・シャーデほか著『ベルリン美術館』岩波書店、1987年(共訳)
- ・『アール・デコの世界』第5巻、学習研究社、1990年(共著)

- ・『朝日美術鑑賞講座：名画の見どころ読みどころ』第1巻，朝日新聞社，1992年（共著）
- ・『朝日美術鑑賞講座：名画の見どころ読みどころ』第2巻，朝日新聞社，1992年（共著）
- ・『これだけは知っておきたい世界の名画と巨匠50人』世界文化社，1992年（共著）
- ・『バラの美術館』集英社，1993年（共著）
- ・『ボッス』朝日新聞社，1994年（共著）
- ・クリストファー・ブラウン著『オランダ絵画』西村書店，1994年
- ・クラウス・グリム著『額縁の歴史』リプロポート，1995年（日本語版監修）；青幻舎，2021年〔復刻〕
- ・『3D MUSEUM』小学館，1996年（共著）
- ・CD-ROM『フィレンツェ』新進商会，1996年（共著）
- ・CD-ROM『ファン・ゴッホ』新進商会，1996年（共著）
- ・マイケル・キツソン著『レンブラント』西村書店，1997年
- ・CD-ROM『世界の絵画秀作集』PHP研究所，1999年（共著）
- ・ロバート・カミング著『世界名画の謎：作品編』ゆまに書房，2000年（共訳）
- ・ロバート・カミング著『世界名画の謎：作家編』ゆまに書房，2000年（共訳）
- ・『ルーヴル美術館名品集』日本美術教育センター，2001年（共著）
- ・『すぐわかる西洋絵画よみとき66のキーワード』東京美術，2008年（共著）
- ・『おとなのアート塗り絵 Vol.1：モネ『日傘をさす女』ゴッホ『糸杉』』日経BP，2011年（監修）
- ・『おとなのアート塗り絵 Vol.2：ゴヤ『裸のマハ』&『着衣のマハ』』日経BP，2012年（監修）
- ・『ルーベンス：ネロが最後に見た天使』宝島社，2012年（共著）
- ・『日本で見られる西洋絵画の傑作 Best100』日経BP，2014年（監修）
- ・『一個人別冊完全保存版キリスト教入門』KKベストセラーズ，2014年（共著）
- ・『すぐわかるギリシア・ローマ神話の絵画』改訂版，東京美術，2014年（共著）
- ・『6つのキーワードで読み解く西洋絵画の謎』大和書房，2015年（共著）
- ・ステファノ・ズッフィ著『名画の秘密：ファン・エイク アルノルフィーニ夫妻の肖像』西村書店，2015年
- ・『人生を楽しくするおとなの教養 名著いっき読み』日経BP，2017年（部分監修）
- ・『フェルメール パッカブルBIG トートバッグBOOK』宝島社，2018年（共著）
- ・『すぐわかるキリスト教絵画の見かた』改訂版，東京美術，2019年（共著）

成城大学大学院で指導を仰いだ千足伸行先生からは、西村書店の『オランダ絵画』、『レンブラント』、『名画の秘密』の翻訳、東京美術の『すぐわかる西洋絵画よみとき66のキーワード』、『すぐわかるギリシア・ローマ神話の絵画』、『すぐわかるキリスト教絵画の見かた』の執筆をはじめ、多くの仕事を紹介していただき、商業出版に携わる際のマナーを学ぶことができました。クラウス・グリム教授の『額縁の歴史』は類書のない貴重な文献だが、近年、青幻舎が復刻してくださった。たいへんありがたく思う。

#### 展覧会図録への執筆・翻訳

- ・『イギリスの詩情コンスタブル』伊勢丹美術館ほか，1986年（共訳）
- ・『ホイスラー』伊勢丹美術館ほか，1987年（共訳）
- ・『サージェント』伊勢丹美術館ほか，1989年（共訳）
- ・『デンマーク国立オードロップゴー美術館 19世紀フランス印象派』日本橋高島屋ほか，1989年（共訳）
- ・『印象派：フランス・ドイツ絵画』そごう美術館ほか，1990年（共訳）
- ・『デューラー』熊本県立美術館ほか，1992年（共著）
- ・『華麗なるバロック絵画：ワルシャワ国立美術館』熊本県立美術館ほか，1992年（共訳）

- ・『レンブラント：彼と師と弟子たち』Bunkamura ザ・ミュージアム，1992年（共訳）
- ・『ウィーン幻想派』Bunkamura ザ・ミュージアム，1992年（共訳）
- ・『ケルン市立美術館所蔵ドイツ絵画：バロックから印象派まで』そごう美術館ほか，1992年（共訳）
- ・『17世紀オランダ風景画』東京ステーションギャラリーほか，1992年（共訳）
- ・『マンチェスター市立美術館所蔵珠玉の英国絵画』三越美術館ほか，1993年（共訳）
- ・『ニューオリンズ美術館所蔵フランス絵画の400年』郡山市立美術館ほか，1993年（共訳）
- ・『グラスゴー美術館所蔵フランス印象派とその流れ』伊勢丹美術館ほか，1994年（共訳）
- ・『ハンガリー国立美術館所蔵19世紀ヨーロッパ・ハンガリー絵画』福岡市美術館ほか，1994年（共訳）
- ・『18世紀の巨匠デッサン』ウィルデンスタイン東京，1995年（共訳）
- ・『ボイマンス＝ファン・ブーニンゲン美術館所蔵バルビゾン派から印象派』伊勢丹美術館ほか，1995年（共訳）
- ・『印象派の巨匠：ケルン市立美術館所蔵』奈良県立美術館ほか，1996年（共訳）
- ・『アイルランド国立美術館：19-20世紀フランス近代絵画』大丸ミュージアムほか，1996年（共訳）
- ・『フランス絵画と浮世絵：東西文化の架け橋－林忠正の眼』高岡市立美術館ほか，1996年（共訳）
- ・『ウィーン世紀末』安田火災東郷青児美術館ほか，1997年（共訳）
- ・『英国陶工の父ジョサイア・ウエッジウッド』そごう美術館ほか，2000年（共訳）
- ・『ベルリンの至宝』東京国立博物館ほか，2005年（共訳）
- ・『ウィーン美術アカデミー名品展』山口県立美術館ほか，2006年（共訳）
- ・『クリーブランド美術館展：女性美の肖像』森アーツセンターギャラリー，2006年（共訳）
- ・『ダリ展：創造する多面体』サントリーミュージアム [天保山]，2007年（共訳）
- ・『クリムト、シーレ：ウィーン世紀末展』札幌芸術の森美術館ほか，2009年（共訳）
- ・『THE ハプスブルク展』国立新美術館ほか，2009年（共訳）
- ・『フェルメールからのラブレター展』京都市美術館ほか，2011年（共訳）
- ・『セガントーニー光と山』佐川美術館ほか，2011年（共訳）
- ・『大エルミタージュ美術館展：世紀の顔』国立新美術館ほか，2015年（共訳）
- ・『I made it- You name it：東京都庭園美術館オットー・クンツリ展』東京都庭園美術館，2015年（協力）
- ・『デトロイト美術館展：大西洋を渡ったヨーロッパの名画たち』豊田市美術館ほか，2016年（共訳）
- ・『大エルミタージュ美術館展：オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち』森アーツセンターギャラリーほか，2017年（共訳）
- ・『フェルメール展』上野の森美術館ほか，2018年（共訳）
- ・『メスキータ展』東京ステーションギャラリーほか，2019年（共訳）

美術館に学芸員として勤務した経験はないが、千足伸行先生が監修をなさった展覧会、そしてかつてともに学んだ同窓生たちが企画する展覧会の図録への執筆や翻訳に数多く携わることができた。

#### 雑誌・新聞への寄稿・翻訳・監修・協力

- ・「ウィーン幻想派展2」『読売新聞』（都民版），1992年8月7日；「ウィーン幻想派展4」『読売新聞』（都民版），1992年8月9日
- ・エックハルト・ノイマン編「ニナ・カンディンスキーへのインタビュー」『ユリイカ』第24巻11号，1992年（翻訳）
- ・フェリックス・クレー著「ヴァイマル・バウハウスの思い出」『ユリイカ』第24巻11号，1992年（翻訳）
- ・ドレート・ルヴィッテ・ハルテン著「知られざる神への讃歌」『ユリイカ』第25巻7号，1993年（翻訳）
- ・「日本で見られる世界の名画ベスト100」『日経おとなのOFF』2006年11月号（協力・コメント）

- ・「美術館が変わった」『日経おとなの OFF』 2007 年 7 月号 (協力・執筆)
- ・「日本で楽しめる世界の名画 100」『日経おとなの OFF』 2007 年 11 月号 (協力・執筆・コメント)
- ・「ゴッホのオランダ・ピカソの南仏：欧州美術館の扉を開く」『しんきんカードはれ予報』 2007 年 12 月号 (部分監修)
- ・「世界五大美術館の旅」『日経おとなの OFF』 2008 年 1 月号 (協力・執筆)
- ・「専門家が語る 2008 年美術トレンド：フェルメールはお好きですか？」『日経おとなの OFF』 2008 年 5 月号 (協力・執筆)
- ・「アートエンターテイメント迷宮美術館：父と子の名画展」『アートエンターテイメント迷宮美術館』(NHK 総合テレビ) 2008 年 6 月 15 日放映 (資料提供)
- ・「今年日本で見られる世界の名画入門」『日経おとなの OFF』 2010 年 3 月号 (協力・コメント)
- ・「この秋絶対見るべき！世界の名画 100 完全解説」『日経おとなの OFF』 2010 年 11 月号 (部分監修)
- ・「西洋絵画で読み解く『新約聖書』」『一個人』 2010 年 12 月号 (執筆)
- ・「『破壊』から『復活』へ：レンブラント《ダナエ》が見たもの」『ANA AZURE』 2010 年冬号 (部分監修)
- ・「聖書入門」『日経おとなの OFF』 2011 年 3 月号 (部分監修)
- ・「最強のレジャー施設」『日経トレンドィ』 2011 年 5 月号 (協力・コメント)
- ・「おとなの美術館」『日経おとなの OFF』 2011 年 5 月号 (協力)
- ・「初夏、都心で名画鑑賞」『クオリテ』(東急カード) 2011 年 6 月号 (協力)
- ・「いま目覚める 19 世紀末ウィーン：夢を旅したフロイト博士と 2 人の天才」『ANA AZURE』 2011 年冬号 (部分監修)
- ・「C. K. interview」『club keibun』(しがぎん経済文化センター) 351 号 (2011 年 12 月 1 日) (インタビュー)
- ・「2012 年絶対に見逃せない至高の画家 100 人の名画」『日経おとなの OFF』 2012 年 1 月号 (監修)
- ・「AZURE STORY: 天上の光が差すシャガールの青」『ANA AZURE』 2012 年春夏号 (監修)
- ・「白熱 西洋美術教室」『日経おとなの OFF』 2012 年 11 月号 (監修)
- ・「一生に一度は見たい名画のある美術館」『日経おとなの OFF』 2013 年 5 月号 (部分監修)
- ・「名画と美女の謎」『日経おとなの OFF』 2014 年 1 月号 (部分監修)
- ・「LEONARDO da VINCI 続々と発見される作品は果たして真作か、贋作か」『しんきんカードはれ予報』 2014 年 3 月号 (監修)
- ・「日本で見られるルノワール BEST 25」『日経おとなの OFF』 2014 年 5 月号 (監修)
- ・「賢いおとなのモノの言い方」『日経おとなの OFF』 2014 年 6 月号 (部分監修)
- ・「2015 年絶対に見逃せない美術展」『日経おとなの OFF』 2015 年 1 月号 (部分監修・対談)
- ・TREND UPDATE Vol.19：“ヒット確定”の展覧会 世界の名門美術館が来日」『日経トレンドィ』 2015 年 3 月号 (コメント)
- ・「Check The News! Art：フェルメールの『天文学者』」『日経おとなの OFF』 2015 年 3 月号 (コメント)
- ・「この秋、行列ができる！画家 10 人の謎」『日経おとなの OFF』 2015 年 10 月号 (協力・コメント)
- ・「フェルメールとレンブラント：17 世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」『京都：コロン』 第 5 巻 10 号 (2015 年) (コメント)
- ・「2016 年絶対に見逃せない美術展」『日経おとなの OFF』 2016 年 1 月号 (協力・コメント)
- ・「TREND UPDATE ルノワール最高傑作が初来日」『日経トレンドィ』 2016 年 9 月号 (コメント)
- ・「2017 年絶対に見逃せない美術展」『日経おとなの OFF』 2017 年 1 月号 (協力・コメント)
- ・「感動！の美術展美術館」『日経おとなの OFF 特別編集』 2017 年 5 月 13 日 (部分監修)
- ・「2018 年絶対に見逃せない美術展」『日経おとなの OFF』 2018 年 1 月号 (部分監修)
- ・「2018 年絶対に見逃せない美術展ガイド」『日経おとなの OFF 特別編集』 2018 年 3 月 17 日 (部分監修)

- ・「沈黙の宮廷画家ベラスケス」『日経おとなの OFF』2018年4月号（コメント）
- ・「2018 夏&秋 絶対見るべき名画・名品 77」『日経おとなの OFF』2018年7月号（協力・コメント）
- ・「アートを学ぶ 絵画を楽しむ」『club keibun』（しがぎん経済文化センター）433号（2018年10月1日）（執筆）
- ・「2019年絶対に見逃せない美術展」『日経おとなの OFF』2019年1月号（部分監修）
- ・「2019年絶対に見逃せない美術展保存版」『日経おとなの OFF 特別編集』2019年4月3日（部分監修）
- ・「ドヤれる週末 ARIA 美術展：恋多きクリムトの作品が東京に大集結！」ウェブサイト『日経 ARIA』2019年4月24日発信（コメント）
- ・「すべての教養は名画で身に付く！」『日経おとなの OFF』2019年6月号（部分監修）
- ・「ドヤれる週末 ARIA 美術展：モネの「幻の睡蓮」が60年ぶりに奇跡の発見&来日！」ウェブサイト『日経 ARIA』2019年6月20日発信（コメント）
- ・「『週末アートデビュー』のススメ：2019年夏秋イチオシ美術展とド素人のためのアート鑑賞のツボ」『日経 WOMAN』2019年8月号（コメント）
- ・「ドヤれる週末 ARIA 美術展：カラヴァッジョの傑作が日本初公開！真夏の美術展3選」ウェブサイト『日経 ARIA』2019年8月9日発信（コメント）
- ・「日経おとなの OFF presents 医師の絶対教養美術編：あなたの知らないゴッホ」ウェブサイト『日経メディカル』2019年10月21日発信（コメント）
- ・「ドヤれる週末 ARIA 美術展：知名度が上昇中の画家による、アイロニックな名画とは？」ウェブサイト『日経 ARIA』2019年12月12日発信（コメント）
- ・「ドヤれる週末 ARIA 美術展：バンクシーにゴッホ『ひまわり』必見美術展が続々再開」ウェブサイト『日経 ARIA』2020年6月18日発信（コメント）
- ・「PARTNER 美術館ワンランク上の名画鑑賞のテクニク：真珠の耳飾りの少女 ヨハネス・フェルメール」『PARTNER』（三菱UFJニコス）2020年8月号（監修）
- ・「今こそ見たい！美術展2020 秋冬」『日経トレンディ特別編集』2020年10月14日（部分監修）
- ・「PARTNER 美術館ワンランク上の名画鑑賞のテクニク：富岳三十六景 神奈川沖浪裏 葛飾北斎」『PARTNER』（三菱UFJニコス）2020年10月号（監修）
- ・「PARTNER 美術館ワンランク上の名画鑑賞のテクニク：32のキャンベルスープの缶 アンディ・ウォーホル」『PARTNER』（三菱UFJニコス）2020年11月号（監修）
- ・「国宝から印象派、ポストモダン、現代アートまで 今年観に行くべき美術展」『しんきんカードはれ予報』2021年4月号（監修）
- ・「2020年絶対見逃せない美術展保存版」『日経トレンディ』2020年1月号増刊（部分監修）
- ・「2021年絶対に見逃せない美術展」『日経トレンディ』2021年1月号増刊（部分監修）
- ・「2022年絶対見逃せない美術展」『日経トレンディ』2022年1月号増刊（部分監修）
- ・「2023年絶対見逃せない美術展」『日経トレンディ』2023年1月号増刊（部分監修）
- ・「絶対行くべき2023アート旅」『日経トレンディ』2023年8月号増刊（部分監修）
- ・「2024絶対見逃せない美術展」『日経トレンディ』2024年1月号増刊（協力）

日経ホーム出版社（2008年より日経BP）から刊行されていた月刊誌『日経おとなの OFF』が美術特集を組む際、毎回、編集全般に関して助言者を務めてきた。『日経おとなの OFF』は2019年に休刊を余儀なくされたが、その後も『日経トレンディ』の臨時増刊号として年に数回の刊行を続けており、美術特集は今年で18年目を迎えた。

## 講演・講座など

- ・講演「17世紀オランダ絵画の黄金時代」奈良そごう美術館，1998年1月26日

- ・講演「ヴェルツブルク市の美術家たちを迎えての公開講演会」成安造形大学, 2000年5月22日(コーディネータ・通訳)
- ・公開講座「西洋美術史入門:横たわるヴィーナスの系譜」成安造形大学, 2008年6月28日
- ・講座「情報教育の実際(美術科編):平成7年度」文部省委託事業CD-ROM『美術の散歩道』を中心に」宇都宮市立教育研究所平成13年度情報教育実践力養成講座, 2001年8月8日
- ・公開講座「西洋美術史入門第2回:フェルメールが愛される理由」成安造形大学, 2009年6月13日
- ・公開講座「西洋美術史入門第3回:ルノワールは印象派ですか? 印象派の画家たちと『現代性』」成安造形大学, 2010年6月12日
- ・公開講座「西洋美術史入門2011年度第1回:ドイツ——もうひとつの美術大国」成安造形大学, 2011年4月23日
- ・公開講座「西洋美術史入門2011年度第2回:美はアルプスの光から」成安造形大学, 2011年4月23日
- ・講演「フェルメール:色彩の画家、バロックの画家」京都市美術館, 2015年11月1日
- ・講演「フランドル・バロックの魅力:ブリュッゲルの子どもたちを中心に」豊田市美術館, 2018年7月1日

※ ほかに市民講座として。

横浜市教育委員会教文セミナー(1993年度~1996年度, 約120回)

朝日カルチャーセンター(1994年度, 1996年度, 1997年度~2000年度, 約10回)

東京都教育委員会都民カレッジ(1996年度, 1997年度, 4回)

しがぎん経済文化センター KEIBUN 文化講座(2012年度~2023年度, 132回)

NHK 文化センター(2015年度~2023年度, 120回)

神戸新聞文化センター(2018年度~2023年度, 72回)

しがぎん経済文化センターの「KEIBUN 文化講座」は、成安造形大学提携講座として12年間にわたって担当した講座である。12年間休まずに受講して下さった方々もいらっしゃって、たいへん感慨深い。大学の授業は毎年受講者が新しくなるが、市民講座では何年も続けて受講して下さる方が多い。そのため、たえず新しい講座内容を用意しなければならないが、豊かな人生経験をおもちの方々が講座内容を深く受けとめて下さり、たいへんよい機会となった。

## ワークショップ・展覧会など

- ・ワークショップ・展覧会「タイムスリップ つくろう! あそぼう! 江戸時代のおもちゃ」大津市歴史博物館, 2002年8月6日~8月25日
- ・ワークショップ「つくろう! あそぼう! 夏休みのおもちゃ」・展覧会「夏休みの思い出」大津市歴史博物館, 2003年8月5日~8月17日
- ・ワークショップ・展覧会「いっしょにつくろ★手づくり 江戸時代の玩具(おもちゃ)」大津市歴史博物館, 2004年8月3日~8月22日
- ・ワークショップ・展覧会「つくってあ☆そ☆ぼ 江戸時代のわくわくおもちゃ」大津市歴史博物館, 2005年8月2日~8月21日
- ・ワークショップ・展覧会「おもちゃでタイムスリップ! 江戸時代☆」大津市歴史博物館, 2006年8月1日~8月20日
- ・ワークショップ・展覧会「つくるでござる☆お江戸のおもちゃ」大津市歴史博物館, 2007年8月3日~8月20日

- ・ワークショップ・展覧会「つくるでござる 江戸時代のわくわくおもちゃ」大津市歴史博物館，2008年8月5日～8月17日
- ・ワークショップ「大津っ子夢・未来体験活動推進事業：親子でつくろう くねくねおもちゃ」仰木の里っ子育成ネットワーク協議会，2008年12月21日
- ・ワークショップ・展覧会「あつまれ！ 江戸時代のおもちゃづくり」大津市歴史博物館，2009年8月2日～8月16日
- ・ワークショップ・展覧会「江戸時代ってどんなもの？ みんなで体感、楽しいおもちゃ!!」大津市歴史博物館，2010年8月1日～8月15日
- ・展覧会「こどもと造形——プロジェクト演習の活動から」成安造形大学，2011年3月29日～4月29日
- ・ワークショップ「天使のいた時代の絵をつくろう！ 3D」滋賀県立近代美術館，2011年5月21日

大津市歴史博物館からの提案を受け、2002年度から2010年度まで夏休みのワークショップを正課の授業（「生涯学習演習」および「生涯学習研究」、2007年度からは「プロジェクト演習C1」および「プロジェクト演習C2」、翌2008年度からは「プロジェクト演習C1」～「プロジェクト演習C4」）として担当し、熱意ある学生たちとの交流を楽しむことができた。

## 役職

- ・アート・ドキュメンテーション研究会幹事，1993年度～2003年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会『アート・ドキュメンテーション研究』編集委員会委員，1993年度～1999年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会『アート・ドキュメンテーション通信』編集委員会委員，1993年度～2002年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会「第1回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム」実行委員会委員，1994年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会『第1回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム報告書』編集委員会委員長，1994年度
- ・情報知識学会『ニューズレター』編集担当，1995年度～1997年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会会員交流委員会委員長，1996年度～1999年度
- ・美学会幹事『美學』編集担当，1996年度～1998年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会「第2回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム」実行委員会委員，1999年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会『第2回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム報告書』編集委員会委員長，1999年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会1999年度年次大会委員長，1999年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会『アート・ドキュメンテーション研究』編集委員会委員長，2000年度～2003年度
- ・アート・ドキュメンテーション研究会（2005年よりアート・ドキュメンテーション学会）『アート・ドキュメンテーション研究』編集委員会委員，2004年度～2005年度
- ・大津市社会教育委員，2008年度～2010年度
- ・京都地区大学教職課程協議会会長，2009年度
- ・アート・ドキュメンテーション学会評議員，2009年度～2016年度
- ・大津市歴史博物館協議会委員，2012年度～2018年度
- ・滋賀県立近代美術館（2021年より滋賀県立美術館）協議会委員，2014年度～2022年度



- ・滋賀県立美術館協議会会長，2022 年度
- ・大津市指定管理者選定委員会委員，2015 年度
- ・環びわ湖大学・地域コンソーシアム幹事，2016 年度～2017 年度
- ・滋賀県文化賞等選考懇話会委員，2018 年度～2023 年度

美学を学科として有する大学が少ないこともあり、長らく、美学会本部および東部会の事務局は東京大学におかれてきたが、成城大学教授、浅沼圭司先生が会長に選出されたことを機に、1996 年度から 1998 年度まで成城大学に事務局がおかれることとなった。それにともない、学会誌『美學』の編集担当幹事をおおせつかった。1990 年代後半は人文学の分野においてもデジタル化が進んできた時期であり、フロッピー・ディスクなどの電子媒体で論文を投稿する会員も現れてはじめていた。そこで、編集担当幹事の任を終えた 1999 年 3 月、電子媒体での投稿の手引きを作成し、次の幹事に託した。以後、歴代の幹事は strict な方々が続いているらしい。この「投稿の手引き」は「1999 年 3 月千速敏男作成」と明記され、改訂を重ねて現在も美学会のウェブサイトに掲載されている。

\* \* \* \* \*

最後に、このささやかな研究業績一覧の題名について説明しておこう。成安造形大学では、卒業制作展の作品集と卒業生のアルバムを学生有志が作成している。毎年、学生たちによってさまざまな企画がたてられてきたが、2015 年度のアルバムでは、教職員に対して和歌を詠むことを求めてきた。この一覧の題名は、そのときに詠んだ歌である。これからも、成安造形大学から学生たちが健やかに巣立つことを祈る。

にお ま うみ こ わこうど たびだ はる はな ことほ  
 鳩の舞う湖を越えて若人の旅立つ春を花と寿ぐ